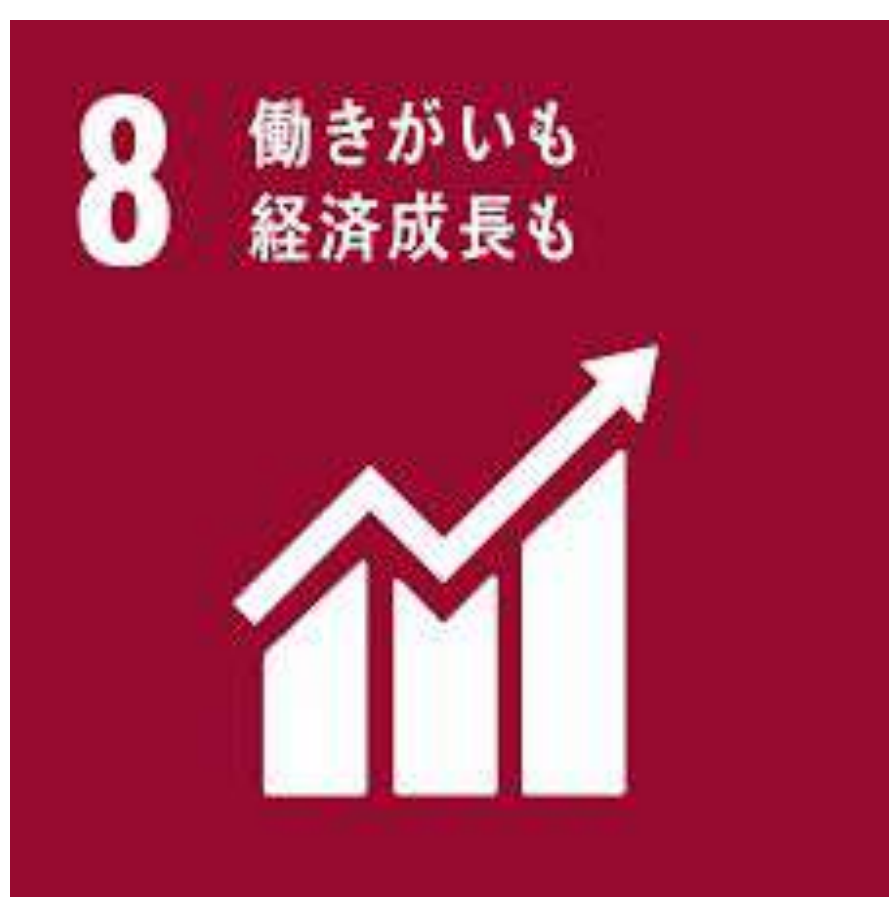


普通科 人文社会 137班

「恋のフリースロー」

指導者 川上真美先生 コーチ 小野雅史様

班員 長友陽香 橋本姫嘉 浜田陽菜乃 谷岩里南



研究の動機

4人中3人が部活のマネージャーで、選手を応援するときに、応援するとしないとでは、何か変わるのかと疑問に思ったから

研究の目的

応援によって選手やチームのパフォーマンスが向上するかどうかを知るため

先行研究

応援されることで、自己肯定感を高めることができ、選手の運動量が約20%UPすることが証明されている



研究方法

- 1 男子に10回女子の応援なしでフリースローを打たせる
- 2 男子に10回女子の応援ありでフリースローを打たせる(応援は班員4人です)
- 3 応援された際の感情のアンケートを取る
- 4 応援ありとなしでシュートする確率はどのように変わるのかを確認する



必要な道具

記録用紙、男子、女子、バスケットボール、バスケットゴール

場所:体育館



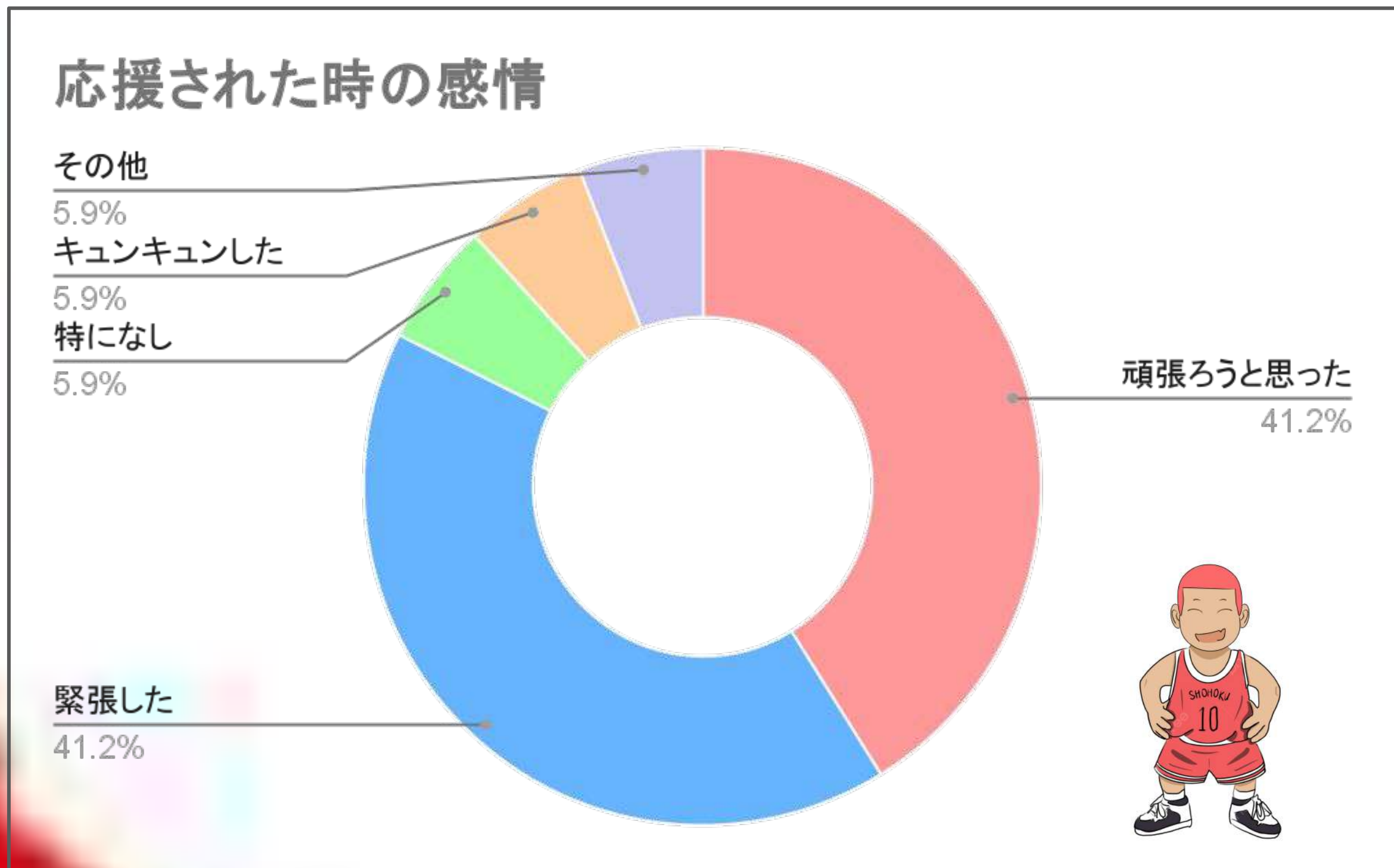
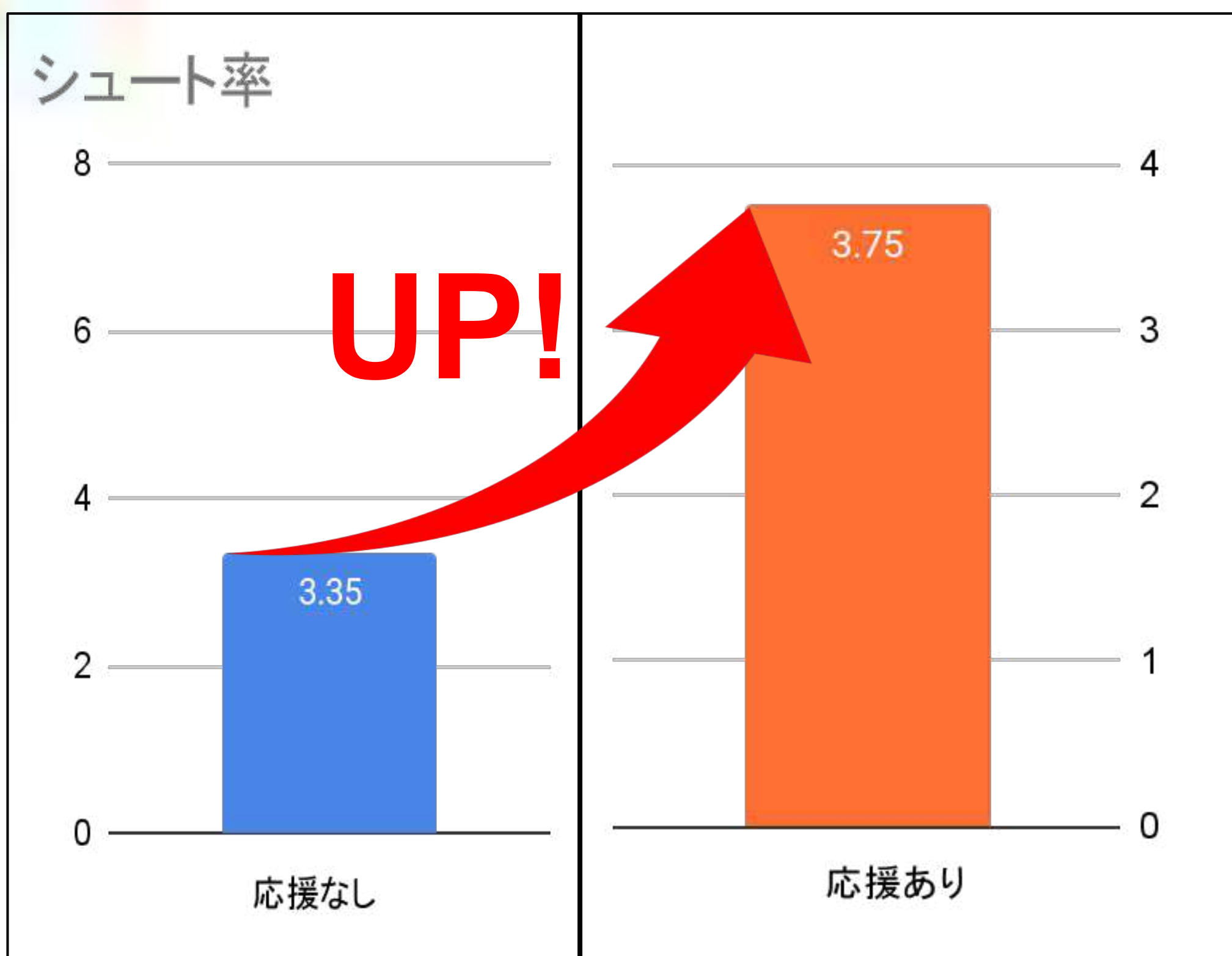
参考文献

スポーツにおける声援がアスリートに与える心理的影響

[https://www.gku.ac.jp/campuslife/study/seminar/doc/2020\\_r-1\\_2kishiA.pdf](https://www.gku.ac.jp/campuslife/study/seminar/doc/2020_r-1_2kishiA.pdf)

仮説

選手がフリースローを打つとき、応援なしより応援ありのほうが自信とモチベーションのUPによりシュート確率が高くなる



考察

50人による実験の結果から応援ありのほうが4%上がっているので応援の効果はあったと考察する。

また緊張したという人が頑張ろうと思った人と同率で多くいたのでリラックスできるような応援や実験法であればさらに応援の効果があるのではないと考える。

謝辞

この研究に携わってくださったすべての皆様誠にありがとうございました。